

台湾と日本における自然災害への防災・減災技術創造に関する国際ワークショップ

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2026年03月02日 ～2026年03月10日	台湾	国立台湾大学 アジア工科大学	・土木工学科、都市・環境 コース、社会基盤学専攻、環 境システム学科、建築学科 ・学部1年生、学部2年生、学 部3年生、学部4年生、修士1 年生、修士2年生、博士1年 生、博士2年生、博士3年生	(芝浦工業大学) 学生73名、学生バイト8名、 教員1名 (国立台湾大学) 学生30名、教員3名、職員3 名 (アジア工科大学) 学生20名、教員1名	稲積 真哉(土木工学課程都 市・環境コース)



図1 国立台湾大学での集合写真

2026年3月2日から10日にかけて、芝浦工業大学(SIT)、国立台湾大学(NTU)、およびアジア工科大学院(AIT)の共催により、土木工学グローバルPBL「防災の未来を仲間とともに創る「Waves of Wonder(技術と発見の波)」」が国立台湾大学にて実施された。本gPBLプログラムには、SITから土木工学科および土木工学課程の学生81名(TA学生を含む)が参加し、NTUの学生30名およびAITの学生20名と混成チームを編成し、英語による議論と協働作業に取り組んだ。今回のgPBLプログラムでは、MRT中原駅付近の深掘削現場、松山駅付近の電力ケーブルトンネル、さらに超高層建築「Taipei Twins」の建設現場など、計3件の現地視察が行われた。加えて、NTUの博士課程学生およびポスドク研究員による研究発表、ならびにいくつかの協力企業の実務者による実践講演が実施され、防災・地盤・構造・水工学にわたる幅広い分野の最前線の知見が共有された。グループワークは期間中に計8回実施され、最終日には各チームが英語によるプレゼンテーションを行い、日・台・泰の教員および実務者を前にその成果を発表した。本プログラムは盛況のうちに終了し、参加学生にとって教室だけでは得がたい実践的な学びを深く体験する貴重な機会となった。異なる文化や価値観を持つNTUおよびAITの学生と英語で議論を重ね、実際の建設・防災の現場に触れることを通じて、専門知識の実践的理解に加え、国際的なコミュニケーション力や課題解決力を養う経験となった。日・台・泰が共に直面する自然災害という共通課題に向き合った9日間は、参加学生一人ひとりにとって大きな成長の機会となった。



図2 グループワークの様子(1)



図3 グループワークの様子(2)



図4 ミニコンテストの様子



図5 現場見学の様子



図6 現場見学での集合写真



図7 最終発表会の様子